

志賀原子力発電所周辺の 環境放射線監視結果及び温排水影響調査結果(速報)

石川県、志賀町及び北陸電力(株)は、発電所周辺の環境放射線監視及び温排水影響調査を実施しています。今回は、平成28年7月～9月の環境放射線監視結果「平成28年度 第2報」及び平成28年度春季の温排水影響調査結果「平成28年度 第1報(春季)」の概要をお知らせします。

環境放射線監視結果については、志賀原子力発電所に起因する環境への影響は認められませんでした。温排水影響調査結果については、全体として大きな変化は認められませんでした。

I 環境放射線監視(平成28年7月～9月)

1. 空間放射線

石川県は志賀原子力発電所から30kmの範囲に24局の環境放射線観測局を設置しています。また発電所では7局のモニタリングポストを設置しています。

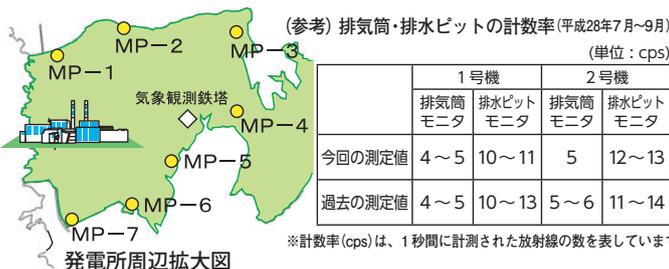
各観測局、モニタリングポストでは、空間の放射線量が1時間あたりどのくらいかを連続して測定しています。

各地点の測定結果は、次のとおりであり、発電所に起因する影響は認められませんでした。

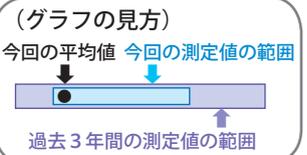
■ 環境放射線観測局(石川県設置)



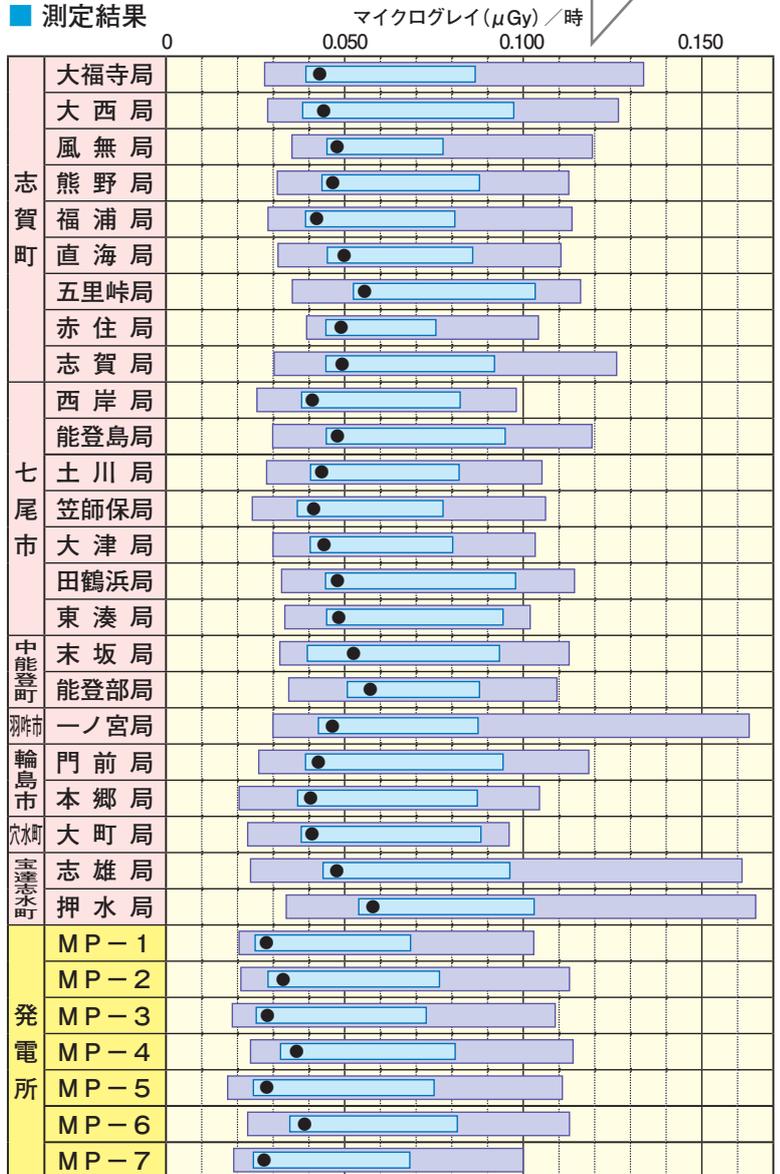
■ 発電所モニタリングポスト(北陸電力(株)設置)



環境放射線観測局
(大福寺局：志賀町)
空間放射線や風向、風速などを測定しています。



■ 測定結果



※ 空間放射線の測定値の単位として、グレイ(Gy) / 時が用いられます。マイクロ(μ)は100万分の1を示します。1 マイクログレイ(μ Gy) / 時=100万分の1グレイ(Gy) / 時

※ 空間放射線の測定値は、通常、宇宙や地面などからの自然放射線によるものであり、0.020～0.100マイクログレイ(μ Gy) / 時程度です。日常よく見られる変動は、降雨による線量率の上昇であり、0.100～0.200マイクログレイ(μ Gy) / 時程度となることがあります。

2. 環境試料中の放射能

農畜産物、海産物、水道水などの試料を採取し、これらに含まれる放射性物質（セシウム137、ストロンチウム90、トリチウムなど）の濃度を測定しています。いずれも過去の測定値と同様に低い値でした。

■ 環境試料採取地点 (石川県平成28年度分)



(参考) 志賀原子力発電所の運転状況 (平成28年7月～9月)

調査期間中は、1号機、2号機とも運転停止中でした。



環境試料

◀大根



◀大根 (前処理中)

■ 測定結果

(グラフの見方)



過去の測定値の範囲 (福島第一原子力発電所事故以前)
※これまで検出されていない場合、表示されていません。

【セシウム137】

		(単位)	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	降下物	ベクレル/平方メートル・月			今回検出されず			
	大気浮遊じん	ミリベクレル/立方メートル			今回検出されず			
	陸水	ミリベクレル/リットル						今回検出されず
	土壌	ベクレル/キログラム乾土						今回検出されず
	松葉	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	牛乳	ベクレル/リットル						今回検出されず
海洋試料	地域特産物	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	海水	ミリベクレル/リットル						今回検出されず
	海底土	ベクレル/キログラム乾土						今回検出されず
	海藻類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	貝類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	魚類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず

※ 試料採取期間 平成28年6月～10月

【ストロンチウム90】

		(単位)	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	土壌	ベクレル/キログラム乾土						今回検出されず
	牛乳	ベクレル/リットル						今回検出されず
海洋試料	海底土	ベクレル/キログラム乾土						今回検出されず
	海藻類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	貝類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず
	魚類	ベクレル/キログラム生						今回検出されず

※ 試料採取期間 平成28年4月、5月

【トリチウム】

		(単位)	0.01	0.1	1	10	100	1000
陸上試料	陸水	ベクレル/リットル						今回検出されず
海洋試料	海水	ベクレル/リットル						今回検出されず

※ 試料採取期間 平成28年7月

温排水影響調査(海生生物)について

今回は、温排水影響調査で行っている海生生物調査のうち、冬期に実施する岩のり調査についてご説明します。

岩のりの調査は、潮間帯生物(満ち潮と引き潮の間の海域に生息する生物)調査の一つとして、11月～2月に行われます。



イワノリ調査(剥ぎ取り中)

写真の中の、25cm×25cmの四角で囲った枠の中にどのような種類の岩のりがどれくらい生えているかを調べます。



イワノリ調査(剥ぎ取り後)

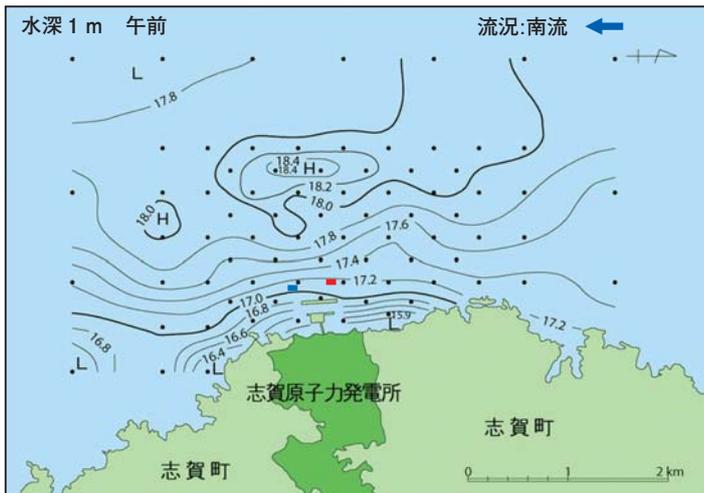
これまでの調査では、ほぼ全量がウップルイノリと呼ばれる種類で、枠の中に数万本ののりが生えていることもあります。

ちなみに、「ウップルイ」は、「十六島」と書き、島根県の岩のりの産地が名前の由来になっています。(諸説あり)のりにはこの他、マルバアマノリや養殖ノリのスサビノリ、アサクサノリ等の種類があります。

II 温排水影響調査(平成28年度春季)

1. 水温調査(調査日:平成28年5月24日)

■ 調査結果(水深1mの水温分布) 単位:℃



※ ■は1号機の放排水口位置、■は2号機の放排水口位置、●は水温調査地点を示す。

〈温排水の状況〉

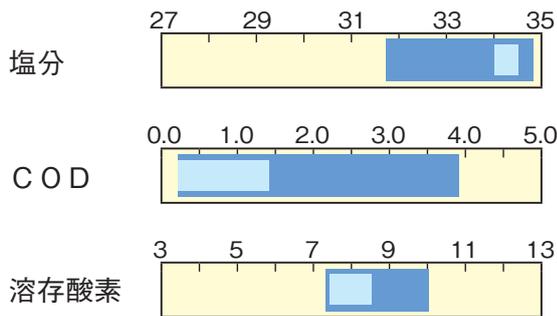
今回は、1号機、2号機とも運転停止中であり、温排水は放水されていませんでした。



▲ 水質調査(溶存酸素)

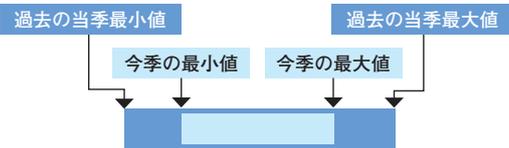
2. 水質調査(採水日:平成28年5月24日、25日)

■ 調査結果(単位:mg/l ただし塩分を除く)

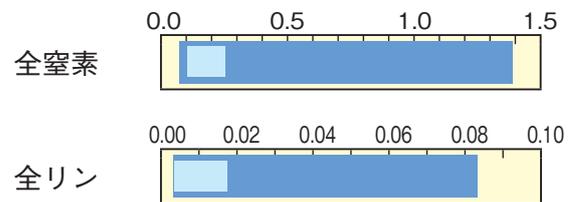


※ COD: 化学的酸素要求量 (Chemical Oxygen Demand)

(グラフの見方)

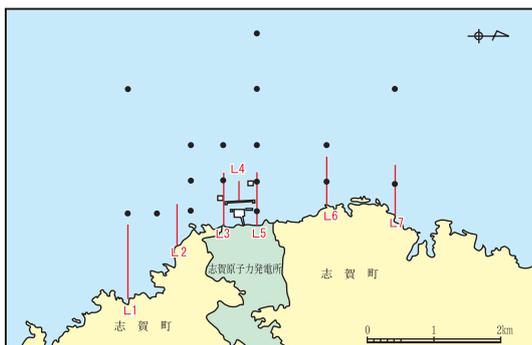


※過去の当季最小値及び最大値は、平成15年度～平成27年度までの調査結果です。



3. サザエ生息調査(平成28年5月19日、26～29日)

■ 調査地点



●: 水質調査地点 | : サザエ生息調査測線

■ 調査結果

調査測線	水深(m)	調査面積(m ²)	調査結果(平均個体数/25m ²)	過去の調査結果(平成15～27年度)(平均個体数/25m ²)
L 1	3～20	125	4.2	2.8～8.4
L 2	3～20	125	5.6	2.6～12.4
L 3	3～20	125	1.2	2.4～9.6
L 4	15～20	50	1.5	0.0～1.5
L 5	3～20	125	4.4	3.2～11.2
L 6	3～20	125	5.8	1.2～11.0
L 7	3～20	125	8.2	4.8～19.8

水温調査: これまでの春季調査結果と比較すると、平均水温は過去の範囲にあり、平均塩分は高めの値でした。同一水深層での温度差は0.7～3.1℃、塩分差は0.1～1.4でした。鉛直的には、上下層間の差は、水温は大きく、塩分は小さい結果でした。

水質・底質調査: これまでの春季調査結果と比較すると、水質・底質ともほぼ同程度でした。

海生生物調査: これまでの春季調査結果と比較すると、いずれの項目も出現状況はほぼ同程度でした。